

製品名: UPB1 ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe21230

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:300,IP 1:50-1:100
分子量	Calculated MW::Observed MW:42kD

抗原情報

遺伝子名	UPB1;BUP1
別名	UPB1;BUP1;Beta-ureidopropionase ;BUP-1;Beta-alanine synthase;N-carbamoyl-beta-alanine amidohydrolase;
遺伝子 ID	51733.0
SwissProt ID	Q9UBR1
免疫原	ヒト UPB1 の合成ペプチド

背景

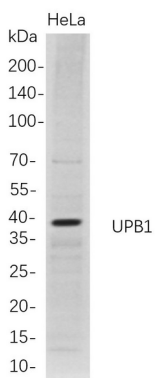
細胞局在: 細胞質。この遺伝子は CN 加水分解酵素ファミリーに属するタンパク質をコードしている。β-ウレイドプロピオナーゼは、

ピリミジン分解経路の最終段階を触媒する。ピリミジン塩基であるウラシルとチミンは、ジヒドロピリミジン脱水素酵素 (DHPDH)、ジヒドロピリミジナーゼ (DHP)、 β -ウレイドプロピオナーゼ (UP) の連続的な作用により、それぞれ β -アラニンと β -アミノイソ酪酸へと分解される。UP 欠損は N-カルバミル- β -アミノ酸尿症と関連し、神経活動の異常につながる可能性がある。
[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



HeLa 細胞全細胞ライセートのウェスタンブロット解析では、4~20% SDS-PAGE で分離し、膜を抗 UPB1 ウサギモノクローナル抗体でブロッキングした。抗体の検出には、HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。